



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：アフマディネジャード大統領のシリア訪問

(5月5日付現地報道)

5月5日、アフマディネジャード大統領はシリアを訪問した。報道によるとアフマディネジャード大統領によるシリア訪問およびシリア大統領との会談は（同大統領就任後）3回目となり、今回のシリア訪問の目的は「地域・世界の新たな情勢につきレビューするため」であった。さらに右訪問にはモッタキー外相、サイーディキア住宅都市建設相、メフラビヤン工業鉱山相、マシャーイー副大統領兼文化遺産・観光手工業庁長官が同行した。現地報道を取りまとめた概要は以下のとおり。

1. イラン・シリア二国間共同会合（同日付大統領府プレスリリース報道）

- (1) 両国大統領は、諸大国及び西側諸国が政治や経済を始めとした様々な分野において行き詰まりに至っていることを強調し、両国は明確且つ新たな世界秩序の構築に向けて効果的な役割を果たしていかなければならないと述べた。さらに、地域諸国の協力及び関係拡大が不可欠であるという認識を示し、イラン、シリア、イラク及びトルコの4カ国間の協力は地域諸国の利益に資するものであると述べた。
- (2) また両国大統領は、様々な分野における米国の矛盾した発言について、未だに実体的かつ、真の米国の「変化」はみられていないことを確認した。さらに、地域問題に関しては、占領軍の撤退が実現するまでは、パレスチナ国民及びイラク国民政府による（占領軍への）抵抗を支援し続けることが、両国の最も重要な仕事の一つであることを強調した。
- (3) アフマディネジャード大統領は、この会合において、現下の世界におけるイラン及びシリアの重要な責務について言及すると共に、抵抗を続けるのと同時に新たな世界秩序構築を追求する必要性を強調した。また、米国政府関係者は一方ではシオニズム体制を擁護しようとしているが、他方でイラン及びシリア（の協力）を必要としているとして、米国政府の抱える矛盾について述べた。
- (4) アサド大統領は、抵抗を今後も継続していく必要性を確認すると共に、パレスチナ、シリア及びその他占領地域に関する米国の立場は未だに根本的かつ真の「変化」に至っていないことを強調した。

2. 共同記者会見におけるアフマディネジャード大統領発言

（同日付大統領府プレスリリース報道）

- (1) イランとシリアは、世界における建設的な影響力を追求している。両国を邪悪の根源と見なしてきた全ての者達は、今日、この両国との関係を追求するに至っているのである。地域情勢は急速にイラン及びシリアが理想とする方向へ変化し始めている。
- (2) 現在、世界情勢は急速に変化している。これまで高慢な立場で物言いをして、イランとシリアに侮辱的な容疑をかけてきた地域諸国の敵は、今日より脆弱な立場に成り下がっており、パレスチナ問題やアフガニスタン問題を始めとした世界の諸問題についての解決

策も持ち合わせていないのである。

(3) イラク問題に関しては、イランとシリアはイラク合法政府の強化及び治安確立を支援していく。イラクの団結及び同国からの外国勢力の撤退は、イラク及び全ての地域諸国の利益に資するものである他、外国勢力自身の利益でもある。彼らは、自国国民のために奉仕をすべきである。

(4) シオニズム体制による（パレスチナ）占領は、細菌のようなものである。同体制の本質は、占領、侵略、殺戮及び人種差別であり、占領地域の隅々まで（パレスチナ）国土の開放が実現する日まで、抵抗は続けられるのである。こうしたことから、パレスチナ人による抵抗への支援は、人類の義務であると共にイランとシリアの義務である。シオニズム体制は、ガザにおける無辜の人々を攻撃・殺害し、水や食料や医薬品の補給路を塞ぎ、さらにガザの人々に対してテロの容疑をかけているのである。仮にシオニズム体制に何故彼ら（パレスチナ人）をテロと呼ぶのか」と尋ねれば、「パレスチナ人が抵抗をするからであり、これ即ちテロである」と答えるのである。これこそがシオニズム体制及び自由民主主義の理論なのであり、これは今日、行き詰まりを迎えているのである。

(5) イランとシリアの両国間関係は拡大の一途を辿っており、発展に向けてのいかなる障害も存在しない。我々は経済、観光、文化、関税優遇及び共同銀行設立などの分野において関係強化をフォローしているところである。今般の（シリアとの）交渉の中ではイラン、シリア、イラクの3カ国協力に関するものも取り上げられた。私（アフマディネジャード大統領）は、アサド大統領及びマーレキー首相と共に、石油・ガス及び輸送プロジェクトを追求しているところである。

### 3. マシュアル・ハマス政務局長との会談（同日付 IRNA 報道）

(1) アフマディネジャード大統領は右会談において、「敵達およびシオニスト達は軍事的敗北の後、政治的戦略の行使を以て自らの目的達成を欲している。ハマス及びムスリム諸国は、同政権首脳部の追訴要求およびシオニスト達の正体暴露等様々な方法を駆使することで、シオニスト政権に対する政治的圧力を強化しなければならない」と述べた。また、イランはパレスチナの抑圧された国民を支持するとし、「イスラム諸国は全面的にパレスチナの抑圧された国民およびハマスを支持しなければならない」と述べた。

(2) これに対しマシュアル局長は、パレスチナの抑圧された国民に対するイランのハメネイ最高指導者、政府及び国民の支持に感謝しつつ、勝利到達までシオニスト政権に抵抗し続けると強調した。

### 4. その他

アフマディネジャード大統領は同日、ラマザン・アブドッラー・イスラミック・ジハード事務局長等と会談した。